

グローバルな環境で《Captains of Industry》を体験できる 人材育成を目指す「渋沢スカラープログラム」

一橋大学商学部では、2013年度以降の入学者を対象に、独自の選抜教育プログラム「渋沢スカラープログラム」を実施している。《Captains of Industry》としての役割を、グローバルな環境で体験できる人材育成がねらいだ。

近代日本資本主義の父・渋沢栄一を ロールモデルにした選抜プログラム

プログラム名に冠された「渋沢」とは、近代日本資本主義の父と言われ、商法講習所（一橋大学の前身）の創設にもかかわった渋沢栄一のことである。

明治維新後、ヨーロッパから帰国した渋沢は、近代日本の租税・貨幣・銀行制度の樹立、殖産興業政策の指導、株式会社制度の啓蒙・普及などに携わる。日本初の銀行である第一国立銀行をはじめ、約500もの会社の設立・経営に参画した。これが「近代日本資本主義の父」と言われる理由だ。

その渋沢栄一をロールモデルに、グローバルな環境で《Captains of Industry》を体験する人材を育てていく。「渋沢スカラープログラム」という名称には、そんな意味が込められている。

プログラム内で提供される

専門科目を英語で学び 1年間、協定校に留学するという特徴

「渋沢スカラープログラム」には選抜試験がある。書類選考や面接試験を通して、思考力・洞察力・志・情熱・コミュニケーション能力などの観点から総合的に評価している。選抜された学生は大学2年次からプログラムに参加する。

プログラム最大の特徴は、専門科目を英語で学ぶことだ。プログラム修了要件の単位数は38単位で、卒業要件の約3分の1の単位を英語による専門科目で取得することとなる。また、選抜された学生は海外の協定校へ1年間留学することも、大きな特徴だ。留学先で受講した商学関連科目についても、プログラム修了要件として積極的に単位を認定していく。

先進性に富んだ同プログラムでは、学生が段階を経て学習できるよう、初級、中級、上級レベルで各分野の専門科目が英語で開講されている。また、これらの授業は、2010年度よりスタートした教育プログラム「HGD」(Hitotsubashi University Global Education Program) 科目の一部でもあり、学生交流協定校からの交換留学生も履修できる。二つの教育プログラムの相乗効果により、日本人学生と海外からの留学生が肩を並べて学び、議論を交わすための学習環境が整備されている。

授業、オフィスアワー、ランチ、 少人数クラスという環境を活かして 講師と学生が 密にコミュニケーションをとる

同プログラムにおいて、「Intermediate Course in Finance」は金融を英語で学ぶ中級レベルの授業である。この授業を履修する学生は現在15人、う

グローバル人材育成
英語で学ぶ商学
少人数選抜教育



「Intermediate Course in Finance」の授業。
レクチャースタイルを取りながらも、自由に質疑応答ができるよう工夫している



カン・シンウー (Shinwoo Kang) 特任講師

少人数クラスだから、
問題に対する洞察を
深められる



商学部2年
陳悦さん

「**渋** 沢スカラープログラム」に
応募したのは、一橋大学からさらに海外の大学
に留学して、金融を学びたかったからです。英語での授
業は、ハルビンにいた頃からずっと経験していたので、
日本語の授業より安心でした。そもそも金融や会計など
の学問は、アジアが欧米から輸入したものです。英語で
学んだほうが理解しやすい面があります。また、インター
ネットで検索するときも英語のほうが便利です。日本語
で検索するよりもたくさんの検索結果が出てきますから。

そして「Intermediate Course in Finance」の授業
で重要なのは、英語で行われること以上に、少人数クラ
スであることです。1年次に履修した概論の授業はとて
も勉強になりましたが、100人を超える学生が受講して
いたので、一方的に知識を吸収するしかありませんでした。
でも「Intermediate Course in Finance」の授業
は少人数なので、カン先生に質問したり、学生同士で議
論したりするチャンスがたくさんあります。コミュニケー
ションをとりながら学んでいると、問題に対する洞察が
明らかに深まるのです。自分がどこまで理解しているか、
理解したことをどう伝えればいいのか、はっきりわかります
ね。人間関係も築けますし、英語力もさらにアップする
ので、とても効率的です。(談)



英語の授業も
膨大な宿題も、
大変だから面白い

商学部2年
名東悠宇さん

「**私** はもともと海外志向が強いので、1年間の留学が
必須の「渋沢スカラープログラム」には絶対に参
加したいと考えていました。受験勉強をしていた頃から
英語は得意でしたが、プログラムに応募するにあたって
TOEFLに挑戦するなどして英語力を磨きました。それ
でも実際にプログラムに参加してみると、英語で表現す
ることの大変さや金融の難しさに苦労します。カン先生
に支えられて頑張っているうちに、その苦労が面白さに
変わり、今ではすっかり夢中になってしまいました(笑)。

宿題は1回につき、大判のテキストで30ページ前後を
読み、問題を解いてくるというものが中心です。ただ、
そのページだけではなく章全体を理解していないと解け
ません。テキストを何度も読み返し、友だちと話し合っ
たり、インターネットで調べたり……。エクセルで表を作
成したり計算したりすることも多いので、毎回必死です。

しかし、授業でも宿題でも、自分の力でどうしても乗
り越えられないときには、カン先生が力を貸してくださ
います。そして自分の理解が50%から100%になり、答
えを出せたときは本当に嬉しいですね。切磋琢磨し合え
る仲間にも出会えて、今は大学に行くのが楽しくて仕方
ありません。留学予定のシンガポール経営大学でも、
きっとすぐにとけ込めるという自信もつきました。(談)

ち5人は交換留学生である。この少人数クラスで教
鞭をとるのがカン・シンウー (Shinwoo Kang) 特
任講師だ。カン講師は、韓国・ソウル大学校を卒業
後、渡米。University of Michiganにて経営学博
士号を取得し、2014年度より一橋大学商学部の
教員を務めている。

「Intermediate Course in Finance」は、講
師と学生が議論をしながら進めるには不向きな授
業と判断し、通常のレクチャースタイルを取って
います。ただし履修者が少数ということもあり、自由
に質疑応答ができる授業環境にしました(カン講
師)

授業終了後には必ず宿題 (assignment) が出る。
カン講師によれば「1回につき3〜4時間はかか
る」とのことなので相当なボリュームだ。今回の授
業は、つねにその宿題を終えていることが前提に
なっているため、90分の授業の後も、学生たちは気
が抜けない。そこで授業後にはオフィスアワーを設
けて、学生の質問や相談に対応するようにしてい
る。なおオフィスアワーとは、教員が学生のために

研究室を開放する特定の時間のことで、基本的な事
前の予約は必要ない。カン講師のオフィスアワーに
は、毎回1〜2人の学生が訪ねてくるそうだ。

「少人数クラスで授業を行ううえで、私は一人ひとりの学生の、人となり」を理解し、学生が何でも気軽に話せる関係を築きたいと考えています。とき
には学生と学外でランチをとり、授業以外の話をす
ることで、お互いに理解を深めるようにしていま
す。もちろん強制ではありませんが(カン講師)

授業はすべて英語、オフィスアワーでの質問や相
談も英語。学生には集中力や緊張感が求められる環
境のなか、英語で金融を学ぶ意味についてカン講師
はこう語る。

「将来、海外を舞台に働きたいと希望する学生に
は、良いトレーニングだと思っています。日本語で学ぶ
金融と内容的には変わりませんが、英語の表現に慣
れる絶好の機会になるでしょう。商学部の学生は1
年次で日本語による金融概論を学んでいますので、
私のクラスが良い復習になっているのではないかと
感じています」(カン講師)



ときには教員と学生が一緒にランチをとり授業以外の話もする。これも授業で学生が何でも気軽に話せる関係を築くためだ



授業はすべて英語。配付資料、質問・相談もすべて英語。将来海外を目指す学生には良いトレーニングになる